

平成30年度前期学校評価アンケート結果のお知らせ

学校教育目標 心やさしく 心身ともに たくましい子の育成

一思いやりのある心やさしい子ども 仲間と力を合わせてがんばる子ども 自分で考え、判断し、行動できる子ども 目標をもって粘り強く努力する子どもー

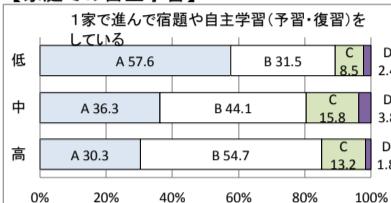
ようやく秋の気配を感じる頃となりました。保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。いつも本校教育推進のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、今年度7月に実施しました前期学校評価アンケートの集計結果について、お知らせいたします。今回の保護者の方の回収率は、約95%でした。ご協力ありがとうございます。

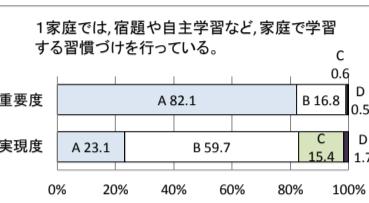
【重要度】 A・・・とても大事	B・・・少し大事	C・・・あまり大事ではない	D・・・大事ではない
【実現度】 A・・・よくできている	B・・・大体できている	C・・・あまりできていない	D・・・できていない
◇ 低・・・低学年（1・2年生）	中・・・中学年（3・4年生）	高・・・高学年（5・6年生）	

1 確かな学力

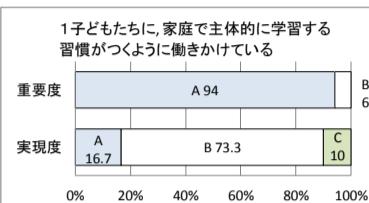
【家庭での自主学習】〈児童・実現度〉



〈保護者〉



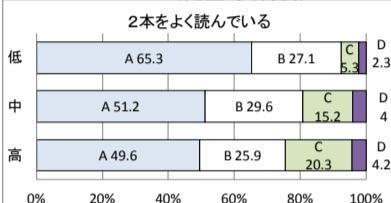
〈教職員〉



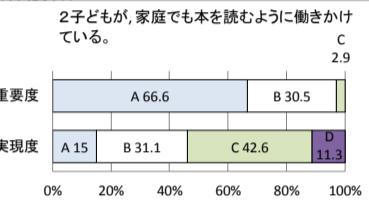
〈結果の考察及び改善策〉

保護者・教職員の回答より、「家庭での学習の習慣づけが大切であると思っているが、実際には日々の働きかけが十分にはできない」という傾向が見られます。子どものA・B回答は、80%を超えていましたが、自主学習に積極的に取り組むことで更に学力の定着や向上を図りたいと考えています。今年度初めて配布しました本校の「家庭学習の手引き」を児童とともに改めて確認し、個別の声かけを行い、家庭学習のさらなる定着を図っていきたいです。

【読書の習慣】〈児童・実現度〉

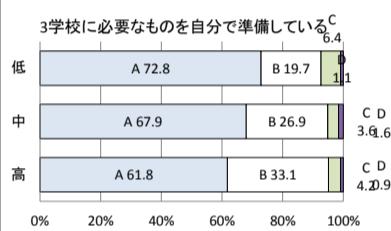


〈保護者〉

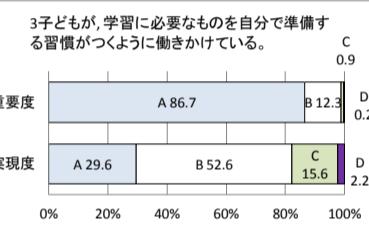


学年が上がるにつれて、「できている」と答える児童の割合が減っています。朝読書や年2回の読書週間の取組などを通して児童の読書意欲を高め、日常の読書の習慣化につなげていきたいと考えています。また、今年度は学校図書館を調べ学習の際にも十分活用できるよう本棚の配置を変えました。今後、様々な学習で、図書館を利用ていきます。ご家庭でも本を読む機会をさらに設けていただけるとありがたいです。

【学習の準備】〈児童・実現度〉



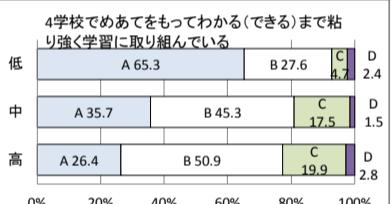
〈保護者〉



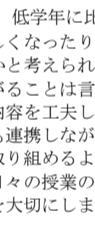
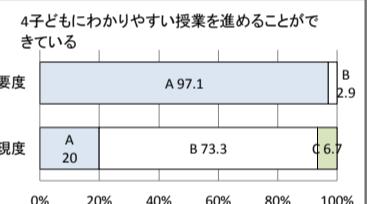
低・中・高学年児童のいずれも90%以上が「できている」と回答しています。「あまりできていない」「できていない」と回答した児童については、一人一人に応じた個別の声かけをする等、ご家庭と連携しながら、学習準備の習慣が定着するように取組を進めています。また、持ち物については子どもたちの負担を考慮し、家庭での予習・復習などに使用せず、学校に置いておいても支障のないものを学校預りとされています。

【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】

〈児童実現度〉



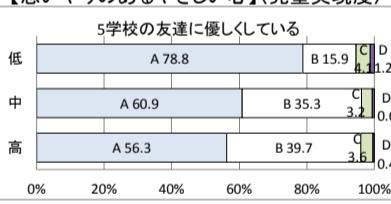
〈教職員〉



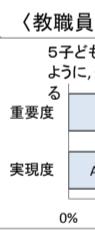
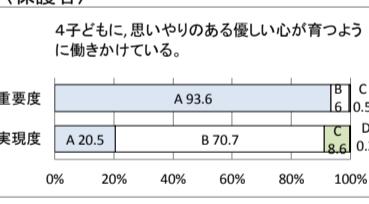
低学年に比べて中・高学年でのC・D回答が多くなっています。これは、学年が上がるにつれて学習内容が難しくなったり、学習量が多くなったりすることで、学習意欲が低下することがその原因となっているのではないかと考えられます。各学年の学習内容を確実に理解して次の学年に上がることが、基礎・基本の力の定着につながることは言うまでもありません。学校としてこれを強く意識し、授業では、児童の学習意欲を喚起するような内容を工夫したり、一人一人が考える時間をしっかりと確保したりしていく必要があると考えています。家庭とも連携しながら、子どもたちの学習に対する理解を深めるよう努力していきます。また、めあてをもって学習に取り組めるように、毎時間の授業の「めあての明示」と、めあてに対する「振り返り」を確実に位置づけるなど、日々の授業の充実に向けての取組を進めています。更に、個々の児童をきちんと見取り、実態に応じた関わりを大切にします。これらの取組を通して、学習内容の確実な定着を図ります。

2 豊かな心

【思いやりのあるやさしい心】〈児童実現度〉

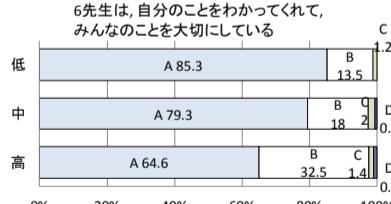


〈保護者〉

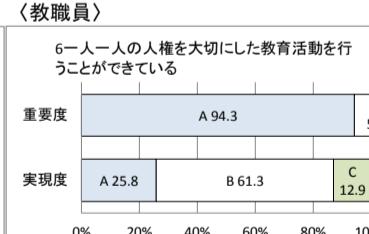
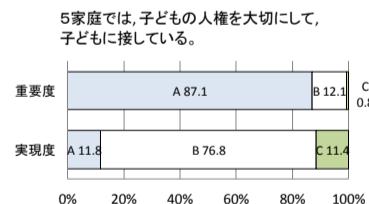


児童の90%以上が「できている」と回答しています。本校の目標子ども像、「思いやりのある心やさしい子ども」に向けて、学校や家庭での取組の積み重ねが、このように良好な結果を招いていると考えられます。今後も、学校教育全体を通して「思いやりのあるやさしい心」を育てていきたいと考えています。

【人権を大切にした教育】〈児童実現度〉



〈保護者〉

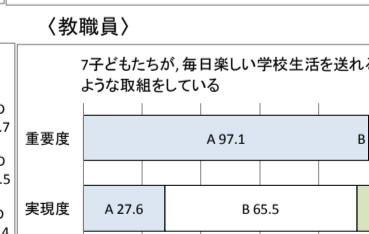
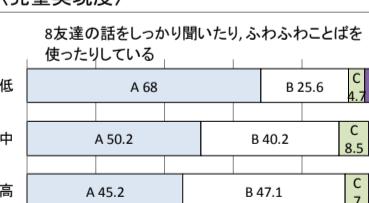


低・中・高学年と、どの学年においても95%以上の児童が「先生は、自分のことをわかつてくれてみんなのことを大切にしている」と回答しています。今後も担任との信頼関係を築き、学級が児童一人一人の居場所として安心して学べる場となり、さらに、友だちの意見を大切にする姿を育てるためにも、学習規律を確立し、普通授業を充実させていきたいと考えています。保護者・教職員においては、C回答が約10%見られることから、大人がまず、自分の言動が周囲に及ぼす影響を想像する力を養っていくことが大切だと考えます。

【楽しい学校生活】〈児童実現度〉



〈児童実現度〉

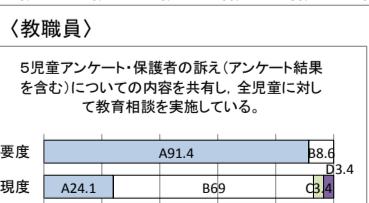


「学校は楽しい」と回答している児童の割合が、高学年では少し低下する傾向にあります。学年が上がるにつれ、他者との関わりや学習面での悩みや困りを感じる児童が増えてくるのではないかと考えられます。高学年に限らず、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答をしている児童の思いをしっかりと受け止めるために、児童の言葉に耳を傾け、家庭とも連携しながら、見守っていきたいと考えます。また、充実した学校生活を送るよう、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できる授業を行います。高学年においては、「グラスマネジメントシート」をはじめとした早期発見、また、楽しい学校生活が送られているかどうかを知るために一つの指標として活用しています。

【いじめ防止のための取組】〈教職員〉



〈教職員〉



両者とも重要度は高いにも関わらず、実現度ではC・D回答も見られます。現在は、月一回のいじめ対策委員会で、子どもたちの気になる様子について情報を共有し、必要に応じて対応を検討するとともに、生徒指導部を中心とした組織的な対応に努めています。また、教育相談に関しては、「学校アンケート」や「いじめについてのアンケート」の実施時期に合わせて、教育相談週間に行事の中に明確に位置づけ実施しています。にもかかわらずこのような回答結果になっていることについて、学校として重く受け止める必要があると感じております。今後は、校内の研修を充実させ、教職員の意識改革を行います。そして、いじめの未然防止のために、学習環境の整備や

